２０１２年４月６日

入間市長　木下　博様

社団法人　日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部支部長　上浪　寛
同保存問題委員会委員長　左　知子
同埼玉地域会代表　三浦清史

武蔵豊岡教会およびその景観の保全に向けた要望書

拝啓　時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
貴市におかれましては，日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに心より敬意を表します。
さて、当協会では武蔵豊岡教会が国道16号線の拡巾に伴う区画整理事業によって建替えあるいは移転をせざるをえない可能性があることを知り、昨年、当会会員有志による見学会を行うなど、状況の把握につとめてまいりました。
ご高承のように1923年竣工のこの豊岡教会堂は大阪大丸心斎橋店や東京の山の上ホテルで知られる米国出身の建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリスの設計で木造としては数少ない、氏の作品であり、高い建築史的価値を有します。
当時の地元工務店と職人達によりつくられたものと推察される点、また、教会の設立が当時日本でも有数の製糸工場であった地元の石川組製糸所の創業者石川幾太郎によるものである点、竣工後は多くの工女達も礼拝に参加していたという背景などから、郷土史を証言する貴重な建物ともなっています。
教会会堂は素朴なコロニアルスタイルが基調で外壁面のモルタルスタッコ仕上げは当時のイメージをそのまま伝えていると思われます．また礼拝堂内部もオリジナルなデザインがよく残され、関係者による日常の手入れの良さとも相まって建築としても健全なものが感じられます。　同敷地内にある旧牧師館もその歴史は古く（明治期）小規模でありながらも充分その存在感を醸し出しています。
なお、周辺には同じ石川家由来の西洋館(設計は東京帝国大学で西洋建築を学んだ室岡惣七)があり、こちらは既に2003年に石川本家から貴市に寄贈されておりますが、この西洋館と武蔵豊岡教会の双方があってこそ、地域の文化資産としての価値が相乗効果として増すものと思われます。

以上のことから一部老朽化部分の修復や耐震的要素を考慮した補強等を行うことで、この武蔵豊岡教会が市の景観を形成する文化的なランドマークとして末永く保全されるべく、貴市のご助力・ご指導を頂けるようご英断をお願いする次第です。
なお、当協会としましても、武蔵豊岡教会及びその景観の保全活用に関しできる限りの協力をさせて頂きたく思います。

敬具

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel.03-3408-8291　Fax.03-3408-8294